

池島・福万寺遺跡Ⅱ 05-2調査

現 地 公 開 資 料

財団法人 大阪府文化財センター

池島・福万寺遺跡

池島・福万寺遺跡は、八尾市福万寺町と東大阪市池島町に広がる遺跡です。

恩智川治水緑地の建設に伴って発掘調査が行われ、縄文時代から現代までの人々の活動の痕跡が発見されています。これまでの調査で、古代・中世の水田や、古墳時代の集落、弥生時代の水田などがみついています。また、最近の調査では、縄文時代の終わりから弥生時代のはじめの頃の墓や居住域がみついています。米作りがはじまったころの河内平野を考える上でも重要な遺跡です。

調査の成果

今回の発掘調査では弥生時代のはじめにつくられた水田と溝（水路）が見つかりました。

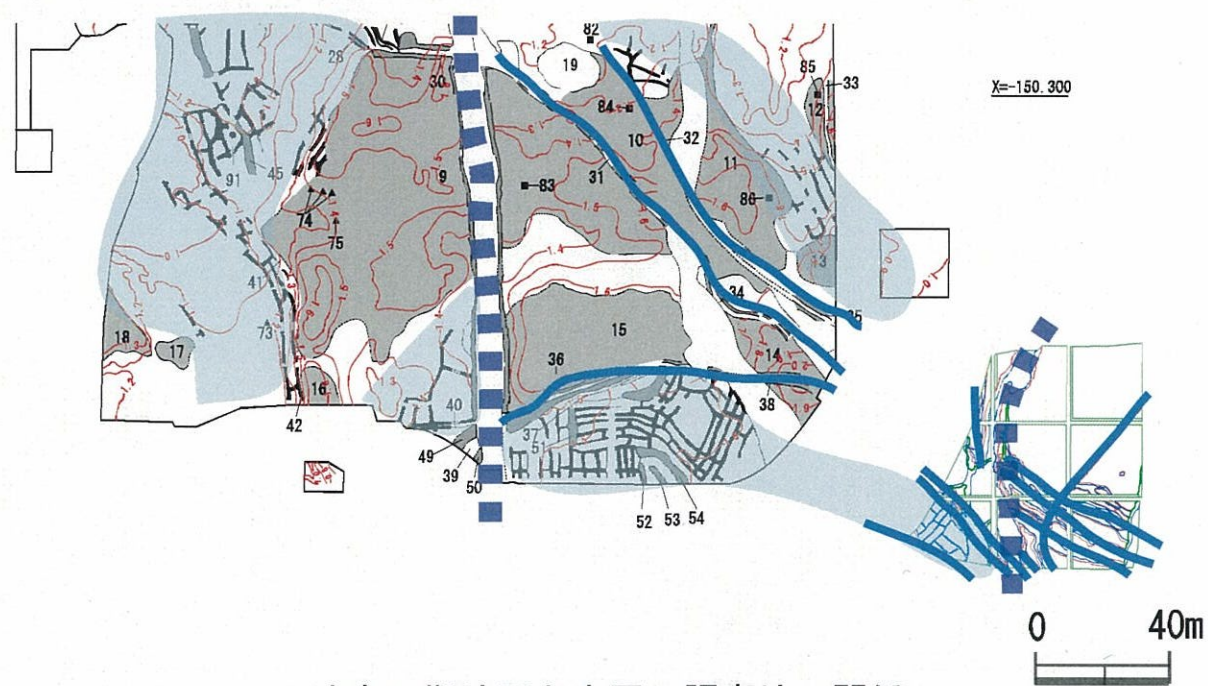
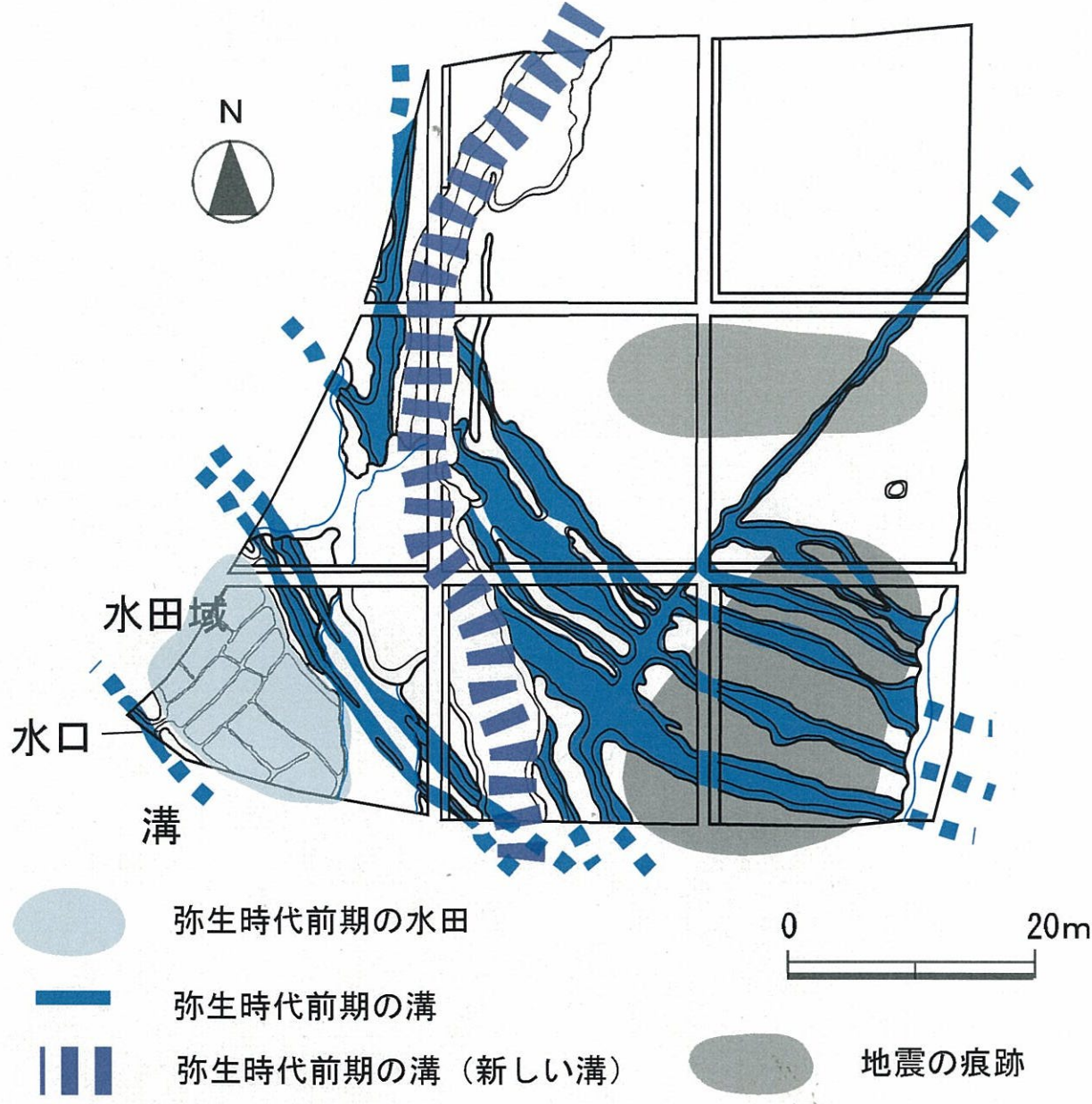
調査地の南側では、南東から北西方向へ伸びる溝（水路）と水田が見つかりました。溝は水田に水を送る目的で掘られたものと考えられます。水田は、一枚の水田が10m²ほどの小さなものです（小区画水田）。比較的平坦な場所に、地形にそって高さ10cmにも満たない小さなアゼをつくって、水田を区画しています。水田は北と南の両側の溝にはさまれた場所につくられていて、溝には水田に水を取り込む水口（みなくち）がつくられています。今回見つかった水田は、標高の高い位置にある南側の水路から水を取り入れていたと考えられます。この水田は、過去に調査された池島Ⅰ期地区の南東部の水田と同じグループのものと考えられます。

調査地の東側では、南東から北西方向にのびる溝と、南から北に向かってのびる溝が見つかりました。これらの溝は調査地の西側や北側の水田に水を送っていたと考えられます。

このほか、調査区の東側では地震の痕跡である噴砂が確認できました。



調査地平面図 (S=1:500)



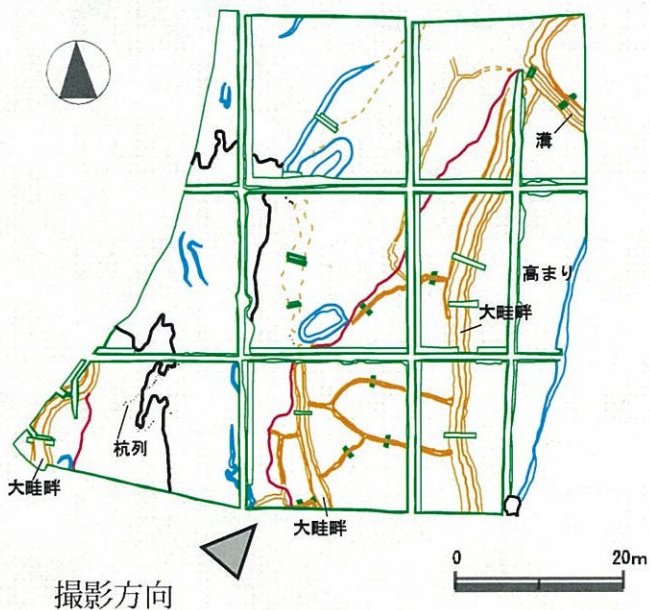
池島 I 期地区と今回の調査地の関係



中世（15世紀末）の水田と島畠

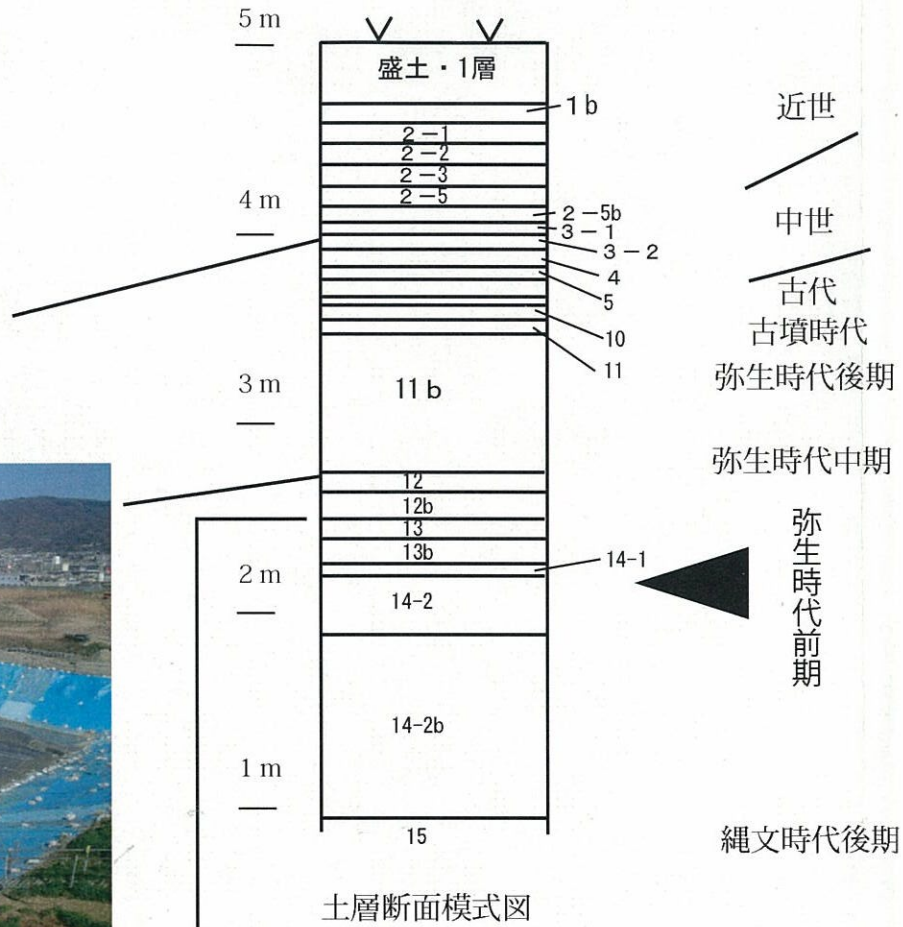


弥生時代中期の水田（12面）



弥生時代中期（12面）の遺構平面図

弥生時代中期には、東から西に向かって低くなる地形にあわせて、大きなアゼを南北につくり、その中の平坦面を小さなアゼで区画した水田がつくられていました。



土層断面模式図



弥生時代中期初頭（13面）の水田

期
期



アゼの検出状況（西から）
水田は細かい砂や泥で覆われていました。

溝（水路）と水田域
（西から）

調査区東側の溝
（南から）



地震の痕跡（噴砂）

調査地の東側では、地震による液状化現象の痕跡が多く見られます。写真の砂脈は、大量の砂を含んだ地下水が地表面に噴き出した痕跡です。